

第27事業年度（平成19年度）事業計画

自 平成19年 4月 1日

至 平成20年 3月31日

・受託事業

国、及び独立行政法人などの公共機関から「石油資源遠隔探知技術の実用研究開発」、「次世代地球観測衛星利用基盤技術の研究開発」、「陸域観測技術衛星「だいち」データ利用技術開発」、及び「画像解析・判読技術の研究」等を受託し、衛星リモートセンシングデータ利用に係る研究開発を実施する。

1. 衛星データ処理・解析に係る研究開発

(1) ASTERデータ品質管理、及びミッション運用に関する研究開発

ASTERデータの幾何補正や、放射量補正等に関する校正・検証を定期的に行い、ASTER標準・準標準データの品質を管理し、良質なデータ提供に努める。

また、限られたリソースの中で、ユーザー要求を最大限満足させるミッション運用に努める。

(2) 衛星データ利用技術に関する研究開発

ASTER、及びPALSAR等衛星データの石油・ガス等の資源開発分野における実用技術の開発を行う。また、資源開発に係る環境保全、京都議定書に係るCO₂吸収源モニタリング、災害監視分野等への利用技術開発を進める。

(3) 次世代地球観測衛星利用基盤技術の研究開発

ハイパースペクトル等次世代衛星センサーデータの実利用化を目指し、センサー開発に資するユーザ要望のとりまとめ、データ解析の基盤となるスペクトルデータベースの開発を進めるとともに、航空機搭載ハイパースペクトルセンサーデータを用い、環境・農業・森林等分野への利用技術開発を行う。

(4) 陸域観測技術衛星「だいち」データ利用技術開発

植生被覆地域における金属資源開発に資することを目指し、PALSAR データ、及びAVNIR-2 データによる岩相識別等地質情報抽出技術の開発を行う。

(5) 画像解析・判読技術の研究

衛星画像の画像解析・判読技術向上のための研究、及び画像解析・判読の実用化に関する研究を継続して行うとともに、そのシステム化について検討を行う。

(6) 国土数値土地利用メッシュデータ作成用データ整備

ASTERオルソデータ（レベル3A）を用いて、国土数値情報土地利用メッシュデータを作成するための基データとなる幾何補正画像を作成する。

2. ASTER地上データシステムの運用、及び維持設計

(1) ASTER地上データシステムの運用

前年度に引き続き、観測スケジュールの作成、ASTERセンサー状況のモニター、日米間のデータ交換、さらに、標準・準標準プロダクトの作成・保存・配付を目的としてASTER地上データシステムを運用する。

(2) ASTER地上データシステムの維持設計

ASTER地上データシステムの機能の維持・向上を目的とした維持設計を行う。

3. PALSAR地上データシステムの運用、及び維持設計

(1) PALSAR地上システムの運用

前年度に引き続き、標準プロダクトの作成・保存・配付を目的としてPALSAR地上データシステムを運用する。

(2) PALSAR地上データシステムの維持設計

PALSAR地上データシステムの機能の維持・向上を目的とした維持設計を行う。

. データ配付事業

衛星データの利用促進を図るため、国内外においてASTERデータおよびPALSARデータの配付を積極的に進める。

. 広報・普及・啓発事業

1. 機関紙の発行

機関紙(ERSDAC NEWS)を発行する。

2. 事業報告会の開催

平成18年度のERSDAC事業を報告する。

以上